

## **IV. 計画の推進に向けて**



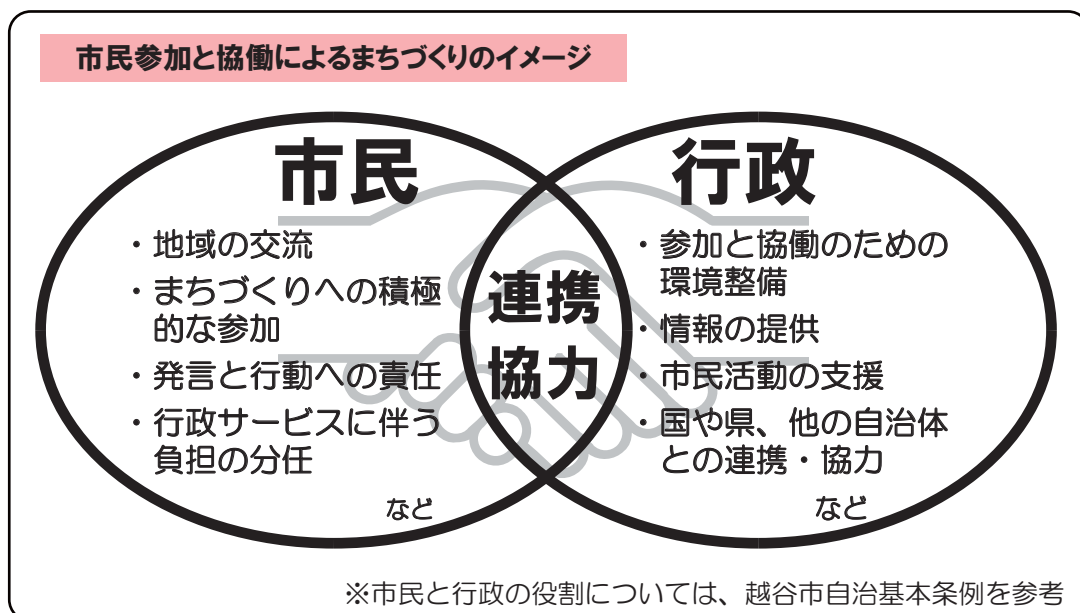
## 1. 市民参加と協働によるまちづくりの推進

近年、市民の価値観やニーズの多様化による行政需要が増加する一方、地方分権の進展により、地域の特性にあった自主的なまちづくりが求められています。

本市では、これまで進めてきた「市民参加」、「協働」などにより自治力<sup>\*20</sup>を培ってきました。

今後も、市民参加と協働によるまちづくりを一層推進し、本計画で示した将来都市像を実現するためには、市民が自ら行うべきこと、行政が行うべきことを市民と行政がしっかりと認識したうえで、それぞれの役割分担のもとにまちづくりに取り組むことが重要となります。

市民の役割としては、自治会やボランティア活動などの地域活動や、身近な公園の管理などのまちづくり活動への積極的な参加などがあります。また、行政の役割としては、参加と協働のための環境整備や情報の提供、市民活動への支援などがあります。



<sup>\*20</sup> **自治力**：自治を推進するための力を意味する。「住民自治」（地域の課題は、地域の住民で解決すること）と「団体自治」（地方自治体が、国から独立した団体として地域の事務を行うこと）からなる「自治」を確立し、住みよい自治のまちの実現を目指す。

## 2. 段階的な都市整備の考え方

持続的な都市の発展を促し、将来の変化に対応する都市としていくために、段階的に都市整備を進めていきます。

また、限られた財源と人材の中で計画的かつ効果的に整備を進めるため、下記を考慮します。

### ①都市レベルでの整備の必要性

都市構造の強化、都市機能更新等への寄与の程度、他地域への波及効果、シンボル性といった都市における事業等の必要性を考慮します。

### ②地区レベルでの整備の必要性

地区の整備水準、施設整備の程度等による地区としての整備の必要性を考慮します。

### ③整備の緊急性

市街地の現況や動向からみた整備の緊急性の程度を考慮します。

### ④事業の実現性

既定計画の有無、権利者等の合意形成、推進体制の整備、事業実施の難易等による実現性を考慮します。

### ⑤事業の効果

部門間の整合を図りつつ事業実施による効果の程度を考慮します。



## (2) 計画の見直し

越谷市都市計画マスタープランは、概ね 20 年間の長期計画であることから、策定後の社会動向や都市整備の進捗状況に変化が予想されます。

計画の見直しについては、上位計画である次期総合振興計画の策定時のほか、社会動向に大きな変化が生じた場合にも見直しを検討するなど、柔軟に対応していきます。